

農業では米国最高峰のアイオワ州立大 しばたパッカーズなどを熱心に視察

米国のアイオワ州立大学の学生24人および職員4人が、養豚産業と農業経営に関する教育プログラムの一環として、新発田市を訪れた。

まずは5月12日(木)朝、新発田市役所を表敬訪問し副市長に面会した。表敬訪問とはいえ、内容は農政に関する学習であり、とくに「生産調整」問題では鋭い質問が飛び、国政レベルの政策と地方自治体の関係や新発田独自の施策の在り方など、専門的であった。その後、生産者である米倉の扶桑畜産、流通現場であるウオロクみどり店を訪れた。最後は日本文化の粹を集めた清水園見学だったが、庭は単なるアートではなく「仏教思想と日本の精神文化の結晶」との話

に驚いていた。

翌、13日(金)は食肉加工・流通を一貫して行う施設「しばたパッカーズ」を視察した。安全と高品質な食味を実現するための最新施設と世界水準の衛生管理システムを目の当たりにして大いに興味を抱いたようだったが、見学後の質疑応答では技術面のみならず、「コストカット」「就業シフト」「流通システム」など、経営面についての質問が多く、農業を完全に「利潤追求のための産業」ととらえていることが伝わってきた。ほとんどの全員が質問するなど、学習意欲はすごく高かった。「すべての従業員が挨拶してくれたのが嬉しかった」との学生の感想に受け入れ側も満足していた。

世界水準の
衛生管理システムに驚きを隠せない



鋭い質問を連発する大学生たち

